

# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 阿見町立阿見第一小学校 】

1 実践テーマ	II・V
2 実施対象者 (学年・人数)	全学年児童 383名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (学級活動, 総合的な学習の時間, 体育)</p> <p>② 行事名 (おもてなし講話, オリンピック銅メダリストに学ぶ会)</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○ キャビンアテンダントによる講話を通し、「おもてなしの心」の醸成を図る。</p> <p>○ オリンピアンなどを招き、「本物に触れる」体験を通して、東京オリンピック・パラリンピックへの関心を高めるとともに、スポーツに親しむ態度を養う。</p>
5 取組内容	<p>(1) おもてなし講話の実施 (5・6年)</p> <p>① 実施日 令和元年7月16日(火)</p> <p>② 講師 現役キャビンアテンダント</p> <p>③ 内容 講話「おもてなしってなあに？」</p> <p>(2) オリンピック銅メダリストに学ぶ会 (3・4・5・6年)</p> <p>① 実施日 令和2年1月21日(火)</p> <p>② 講師 アトランタオリンピック銅メダリスト 太田拓弥さん (現早稲田大学レスリング部監督)</p> <p>③ 内容</p> <p>○ 講話「これまでの経験から皆に伝えたいこと」</p> <p>○ レスリング体験</p>





(3) その他

- 各専門家を招いての学習活動
  - ・陸上競技の基本を学ぶ（全学年）
  - ・ダンス講習会（全学年）
  - ・救命救急講座（2・5年）
  - ・マナーキッズプロジェクト（1年）
  - ・ハンドボール教室（5・6）
  - ・「I'm POSSIBLE」を活用した授業づくり（3・4年）

6 主な成果

- CAの講話から
  - ・思いを伝えるには、言葉遣いや声の大きさ、言い方など、自分の振る舞い方が大切になってくることに気付くことができた。
  - ・CAが仕事上、実際に心がけていることを知ることで、相手を尊重することの大切さを学ぶことができた。
  - ・「おもてなし」とは「表裏がない」ということであり、相手を気持ちよくさせることであることを学んだ。
- オリンピック銅メダリストに学ぶ会から
  - ・何事も絶対に諦めないこと、仲間を大切にすること、目標をもち続けることなど、今後の生活に活かすことができる教訓を得ることができた。
- 各専門家を招いての学習活動から
  - ・専門的な指導を受けることができたので、その競技・種目に対する関心が高まり、意欲的に活動する児童が増えた。

7 実践において工夫した点（事業の特色）

- ・地元の高校出身のオリンピックやCAを招いたことで、児童にとってより身近に感じることができ、夢や希望に向かって努力しようとする意欲が高まった。
- ・人材の発掘については、地域の方々の協力を得て紹介していただいた。そのことを通して、学校と地域との結びつきがより強まった。

8 主な課題等

- ・一時的な取組とならないよう、継続していきたい。
- ・対象を児童だけでなく、保護者や地域の方も参加できるような方法を検討したい。
- ・今後、オリンピック等の講師の選定について苦慮することもあると考えられるので、人材バンク等のリストや、どこに連絡すれば紹介していただけるかなどの仕組みがあるとよいと考える。

9 来年度以降の実施予定

- ・オリンピック・パラリンピアンを招聘するなどの「本物に触れる体験」を通して、目標に向かって努力することの素晴らしさや大切さを学ばせていきたい。